

地域包括ケア

3-P2K-18-8 当院でのレスパイト入退院時における介護者3名の Quality of Life および介護負担度の変化

¹千里山病院リハビリテーション部, ²篤友会リハビリテーションクリニック,
³リハビリテーション科学総合研究所, ⁴関西リハビリテーション病院

中原 理¹, 丸山 伸廣¹, 元野 耕平¹, 三野 英孝¹, 栗田 樹¹,
谷山ゆりえ¹, 小泉 優喜¹, 平岡 駿典¹, 高橋 紀代^{1,2}, 西下 智^{3,4},
吉田 直樹^{3,4}

【はじめに】

レスパイトとは、要介護者を在宅で介護している家族に一時的に介護の代替を行い、リフレッシュしてもらうサービスのことをいう。今回、レスパイトの介護者に対する効果を定量的に評価した。

【対象と方法】

対象は脳卒中後遺症患者の妻3名(A,B,C. 以下、数値はこの順で記載)。年齢は、69, 74, 55歳、介護年数は、4.7, 0.9, 9.2年、要介護者の要介護度は、5, 2, 5だった。

入院日と退院日に Quality of Life(以下、QOL)と介護負担度を、それぞれ SF-12v2 日本語版(以下、SF-12)と、Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版(以下、J-ZBI_8)で測定した。

【結果】

SF-12の8下位項目の入院時/退院時の得点(高得点ほど高QOL。*印は退院時に値が低下)は、身体機能: 29.2/42.5, 2.7/29.2, 2.5/55.7, 日常役割機能(身体): 43/30.2*, 4.7/43, 43/55.8, 体の痛み: 35/46.2, 35/35, 46.2/46.2, 全体的健康感: 35.7/51.9, 51.9/35.7*, 35.7/51.9, 活力: 38.5/56.6, 29.4/47.6, 47.6/47.6, 社会生活機能: 33.7/33.7, 56.6/33.7*, 56.6/56.6, 日常役割機能(精神): 44.7/38.1*, 7.7/32, 32/38.1, 心の健康: 45.8/45.8, 27.7/37.8, 39.8/57.6。入院時に対する退院時の比率の平均は2.01(SD=1.363)であった。

J-ZBI_8(高得点ほど介護負担感大)は、5/6, 30/29, 8/7であり、入退院時でほぼ同値だった。

【考察・結論】

入院前後の介護負担感には著変無かったが、QOLは全体的に向上している点でレスパイトの効果がみられた。しかし、3名中2名では退院時の方がQOLが低い項目もあり、これらの要因について今後検討が必要である。